高経年化技術評価 技術評価書の誤記について

泊発電所 1 号炉 高経年化技術評価書は平成 30 年 6 月 18 日に提出済であるが、高経年化技術評価書のうち、容器の技術評価書に誤記があることが判明したため、その内容について説明する。

1. 経緯

本件は補足説明資料の作成過程で容器の技術評価書 (原子炉容器スタットボルトの過渡回数) に誤記があることが判明した。

2. 誤記内容と技術評価への影響

誤記の内容は下表のとおり。

過渡回数による疲労評価については正しい過渡回数を用いて評価を実施しており、評価結果に影響を与えることはないことを確認した。

また、高経年化技術評価書に記載の他の過渡回数を確認したが、当該箇所以外に誤記がないことを確認した。

容器の技術評価書 (P17)

	訂正前	訂正後	備考		
スタットボルトの疲労評価					
に用いた過渡回数	6 回	o [ii]	記載統一(全角⇒半角)		
(100%からの大きいス		8 回	の際の修正ミス		
テップ状負荷減少)					

3. 今後の対応

確認した誤記についてはQMS(原子力不適合是正管理マニュアル)に基づき処置する。

添付資料

高経年化技術評価書 訂正前後比較表 (原子炉容器)

直级压ル针线证压制。打工前级比缺事(原乙层索吧) (1/1)

		高経年化技	技術評価書 訂正	正前後比	較表(原子炉容器)(1/	/1)			
訂正前				訂正後					変更理由
表2.3-1(3/3) 泊1号炉 原子炉容器 スタッドボルトの疲労評価に用いた過渡回数				表2.3-1(3/3) 泊1号炉 原子炉容器 スタッドボルトの疲労評価に用いた過渡回数					
運転状態 I	運転/状態 I			運転状態I					
	運転実績に基	づく過渡回数				運転実績に基	づく過渡回数		
過渡項目	2012年度末時点	運転開始後60年 時点の推定値			過渡項目	2012年度末時点	運転開始後60年 時点の推定値		
起動(温度上昇率55.6℃/h) 停止(温度下降率55.6℃/h) 負荷上昇(負荷上昇率5%/min) 負荷減少(負荷減少率5%/min) 90%から100%へのステップ状負荷上昇 100%からの%へのステップ状負荷減少 100%からの大きいステップ状負荷減少 定常負荷運転時の変動*1 燃料交換 0%から15%への負荷上昇 15%から0%への負荷減少 1ループ停止/1ループ起動 I)停止 II) 起動	31 32 244 234 3 3 4 - 18 30 22	73 73 720 710 4 4 6 - 59 64 59			起動 (温度上昇率55.6℃/h) 停止 (温度下降率55.6℃/h) 負荷上昇 (負荷上昇率5%/min) 負荷減少 (負荷減少率5%/min) 90%から100%へのステップ状負荷減少 100%からの大きいステップ状負荷減少 定常負荷運転時の変動*1 燃料交換 0%から15%への負荷上昇 15%から0%への負荷減少 1ループ停止/1ループ起動 I)停止 II) 起動	31 32 244 234 3 3 4 - 18 30 22	73 73 720 710 4 4 8 - 59 64 59		誤記による訂正
運転状態 II	VII +- ++ /=) ++			運転状	態Ⅱ	VOI de le président à la lette	⊋ / Na Moren akt		
SE MOST II	連転実績に基	づく過渡回数			過渡項目	運転実績に基	運転開始後60年		
過渡項目	2012年度末時点	運転開始後60年 時点の推定値				2012年度末時点	連転開始後60年 時点の推定値		
負荷の喪失 外部電源喪失 1 次冷却材流量の部分喪失 10%からの原子炉トリップ 1) 不注意な冷却を伴わないトリップ 1) 不注意な冷却を伴うトリップ 10 不注意な冷却と安全注入を伴うトリップ 11 次冷却系の異常な減圧 制御棒クラスタの落下 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動 1 次冷却系停止ループの誤起動 タービン回転試験 1 次系漏えい試験 *1:設計評価においては、1 次冷却材温度 (±3.5kg/cm²) の変動があるものとし 係数への寄与は小さく、また、実際にような変動は生じていない。	ているが,この進	過渡項目の疲労累積		*1 :	負荷の喪失 外部電源喪失 1次冷却材流量の部分喪失 00%からの原子炉トリップ 1) 不注意な冷却を伴うトリップ II) 不注意な冷却を伴うトリップ III) 不注意な冷却を伴うトリップ III) 不注意な冷却と安全注入を伴うトリップ 1次冷却系の異常な滅圧 間御棒クラスタの落下 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動 1次冷却系停止ループの誤起動 9ーピン回転試験 1次系漏えい試験 設計評価においては、1次冷却材温度 (±3.5kg/cm²) の変動があるものとし 係数への寄与は小さく、また、実際にような変動は生じていない。	ているが,この過	渡項目の疲労累積		
- 17	- 17 -			- 17 -					